

生涯学習 だより

第92号 <夏号>

2025年7月1日発行

第92号 目次

- P.1 リニューアルした府中の森芸術劇場
- P.2 [悠学の会] パソコングループの活動
- P.3 府中よさこいの伝承と普及 福元さん
- P.4 隣市を訪ねて 日野市の散策取材

WEB版



企画・編集：生涯学習ボランティア「悠学の会」
共同発行：府中市文化スポーツ部文化生涯学習課／府中市生涯学習センター

地域の文化芸術活動の拠点として

府中の森芸術劇場 館長 牧野 岳

「府中の森芸術劇場」リニューアルオープン

府中の森芸術劇場は多摩地域の文化の拠点として、平成3年（1991）6月に開館いたしました。以来3つのホールの特徴を活かした公演を行うとともに、多くの方々の日頃の文化芸術活動の場、そして成果発表の場としてご利用いただいております。

開館から30年以上が経過し、施設設備の老朽化が目立ってきたことから令和6年4月より改修工事のため約1年の間休館していましたが、このたび府中市による工事が終了し、令和7年5月1日にリニューアルオープンを迎えました。

今回の改修工事では、建築・電気・機械設備の更新のほか、安全性・快適性を高める目的で、①ふるさとホールの機軸席を全て椅子席に改修 ②館内2階の小会議室「梅の間」「櫻の間」の仕切りを可動壁にして2部屋を1部屋（定員：24名）としても利用できるように改修（写真上） ③どりーむホール2階席通路階段や正面広場階段への手すりの取り付け ④正面入口に「府中の森芸術劇場」の施設名を表示（写真下）館内3つのホールの名称表示もLED化するなど、機能回復を図りながらより利用しやすい劇場となるようにいたしました。

リニューアルオープン後は、世界的指揮者である佐渡裕氏が音楽監督を務めるトーン・キーン・ストラ管弦楽団の演奏会をリニューアルオープン記念公演として実施したほか、年内はコンサートや落語など、数々の記念公演を予定しております。新しくなりました府中の森芸術劇場に是非足をお運びください。

文化芸術に親しむ機会をつくる

府中の森芸術劇場では3つのホールにおける舞台公演の提供以外にも、府中ゆかりのアーティストや文化団体と連携した事業を行っています。市内在住のクラリネット奏者である谷口英治氏が講師を務める「府中ジュニアジャズスクール」は、市内の小学5年生から高校生を対象に実施しているもので、国内ではあまり類のない青少年を対象としたジャズの講習会です。現受講生の17期生は、この夏の府中市青少年音楽祭で初ステージを迎えます。また、府中市の郷土芸能である武蔵国府太鼓の普及と継承を目的として、武蔵国府太鼓連盟の協力を得て「武蔵国府太鼓初級者講習会」を令和5年度より府中市から引き継いで府中の森芸術劇場分館で実施しており、今年度の受講者は中学生から80歳代までの方々と、世代を超えて一緒に演奏技術の向上を学んでいます。

さらに劇場だけでなく、府中駅周辺のけやき並木や商業施設、市内の福祉施設などで行う「出張コンサート」では、ホールさながらの演奏を気軽に楽しむことができるとして、好評をいただいております。これらの講習会やコンサートは、昨年の改修工事による休館中も継続して行ってきました。府中の森芸術劇場では、これからも幅広い世代が文化芸術に触れ親しむことができる環境を整え、地域の劇場としての役割を果たせるよう努めてまいります。





悠学の会 パソコングループ 2つの学び返し

パソコングループ リーダー 柳川 守



「パソコングループ（以下、PVG）は、メンバーのパソコンやスマートフォンのスキル向上を図り、かつ今までの学びで得た知識を市民に還元し、デジタルデバйд※の解消の一助になることを目指して活動しています。

グループのメンバーは、今年5名の新規参加があり、男性8名、女性7名の計15名（休会者を除く）です。

活動の拠点（ホームグラウンド）は府中市生涯学習センターですが、協働先として、府中市市民活動センター プラッツと府中市立介護予防推進センター（いきいきプラザ）があります。

※ デジタルデバйдとは

インターネットやコンピュータといったデジタル技術の利用機会や能力の程度によって生じる社会的な格差のこと

◆PVGの3つの活動

1. 定例会（毎月第3火曜日午後）

メンバー間の情報共有のため、最新の技術動向や学習成果を報告し合う場を設けています。また、次月開催の講座テキストを見て、講座内容の共有も行います。

2. 府中市における「学び返し」の実践

PVGでは「学び返し」を「一人ひとりが持つ力を社会に還元すること」と定義し、メンバーの経験やスキルを活かして講座講師や困りごと相談員として活動しています。（担当メンバー8名）



具体的な取り組みとしては

☆パソコン講座の企画・運営

Windows 基礎、Word、Power Point、Excel、データ整理等の講座を開催〔年間10講座〕

☆パソコンスマホ無料相談会<タイトル横の写真>

生涯学習センター（奇数月第3土曜日 PM）、市立介護予防推進センター（偶数月第2火曜日 AM）を開催〔2会場合計 年間12回〕

☆生涯学習フェスティバルや学び返しフェスタ

生涯学習センターと協働して、幅広い年齢層の来場者が参加できるプログラムを提供。例えば、画像や二次元コード入り名刺の作成、幼児向け塗り絵、生成 AI 体験教室などの企画・運営を行い、多くの参加者が成果物を持ち帰れるように実施

☆市民活動センタープラッツとの協働

プラッツで開かれる「市民活動を円滑にする初心者向けスマホサロン in プラッツ」（偶数月第3金曜日 PM）。参加者相互での困りごとと解決を目指してサロン形式で開催され、PVG メンバーはファシリテーター（進行役）かつアドバイザーとして参加

☆「自分史づくり」支援で介護予防推進センターと協働
終活の一貫として密かなブームとなっている「自分史」について、自分史年表（Excel）及び写真を挿入した本文（Word）作成の操作支援を実施

3. 一般的な「学び返し」によるメンバー育成

メンバーの学習の定着や理解の深化を目的として、継続的な振り返りを通して応用力や柔軟な思考を育む学習方法で、パソコン学習の啓発及び手伝いをしています。スキル向上を支援するための学習プログラムは次のとおり。

- ・悠学の会主催講座の無料聴講
パソコン教室の空きスペースを活用して、メンバーは自由に聴講可能となっています。
- ・定例会後のミニ勉強会
毎回、テーマを決めて30分程度の勉強会を実施。前は「生成 AI の現状について」
- ・各イベント後などの個別指導
定例会、講座やイベント終了後、メンバーからの個別相談に応じています。
- ・メールによる困りごと相談へのアドバイス

◆新技術への挑戦

生成 AI（ChatGPT、Copilot など）は現在、重要な情報技術として急速に普及しつつありますが、未経験者の間では「難しそう」という先入観から活用できない方が散見されます。PVGでは「超簡単！15分で生成 AI ユーザーになれる！」をコンセプトに、Windows 基礎講座や Word 講座、各イベントに生成 AI 体験コーナーを新設し、活用促進を図っています。受講者からは体験後、生成 AI を活用しているとの声を多々頂戴しています。

新入会員募集！

生涯学習ボランティア「悠学の会」では、楽しく集える・学べるグループを目指して活動しています。みなさん一緒に活動しませんか。

詳しい活動内容は「悠 WEB」で⇒



学び返して明日につなぐ その〔3〕

よさこいを小学生に長年教え続けている

國府よさこい 福元知子さん（府中町）

府中でよさこいが始まってすぐ入ったよさこいのグループで、その楽しさに魅了され、よさこいをひろく伝え広めていく活動を続けている福元さんに、お話をうかがった。



—— よさこいに関わられるようになったのは

私がよさこいを始めたのは約 20 年前の 2005 年です。その年、並木通り商店会の夏祭りでよさこいをしようということになり、すでに町起こしでよさこいに力を入れていた埼玉県坂戸市から指導の先生を迎えて始まったのです。何でも賑やかなことが好きな性分なので、並木通り商店会のタカハシデンキさんに貼られていた“踊り子さん募集”のポスターを見て、盆踊りくらいしか経験がなく、あまりよくわからないまま応募したのがきっかけでした。参加してみると先生から「楽しむことが一番だよ」と教えられ、実際にやってみると鳴子（なるこ）



をシャンシャン鳴らして踊る一体感が本当に楽しくて今日まで続いています。

よさこいは、翌 2006 年に市内 6 つの商店会が集まり、市全体の大きなイベント「けやきフェスタ『よさこい in 府中』（以下“in 府中”と表記）」として毎年開かれるようになりました。2020 年からコロナ禍でしばらくお休みしましたが、2023 年にはプチ開催、2024 年からは本格的に再開し、今年も第 16 回が 8 月 23・24 日の 2 日間開催されます。中断中に「またやってね、待ってるよ」と楽しみにしてくださる方がおられ、そのことが心の支えでした。だんだんと元のようになっていくのがあるがたいなと思っています。

—— 若松小学校でよさこいを教えておられますね

若松小学校でよさこいを教えるようになったのは 2006 年からです。

運動会でよさこいを踊ることになって、担任の先生に「府中小唄をよさこい風にアレンジした『府中よさこい』があるんですよ。運動会で踊れませんか」と提案したところ快く承諾されました。それで、生徒に鳴子の上手な鳴らし方やよさこいの踊り方を教えることに。

また、翌 2007 年、日頃から地域との交流を深めたいと思っていた当時の校長先生と副校長先生が、in 府中の実行委員長から「今度よさこいのお祭りをするので、子供たちにも参加してもらえないでしょうか」という話を聞き、地域交流にはこれがいいと「若松小学校よさこい同好会」を立ち上げられたのです。それで同好会でも教えるようになりました。

同好会は毎週月曜日の 3 時半から練習します。1 年生から 6 年生まで自由参加で、当初は 80 人位入会しました。踊ることが楽しいのか出席率もいいですね。でも高学年になれば、毎年曲が変わらないので少し飽きてしまっていて、練習ではだらけたりすることもあります。そこで一工夫。1 年生から 6 年生までを縦割りのグループに分け、上級生が下級生の面倒をみる、下級生は上級生に甘えられる交流会を設けて、集うのが楽しくなるようにしています。

子供たちは、練習ではあまり笑わないとか気合が入らずだらけていても、本番になるとすごい笑顔で踊っていて、後で写真を見ると“すごいじゃない”っていうくらいにみんな楽しそうで、やっていて良かったなあといつも思っています。卒業生も、私たちも踊れるからと踊りに参加したり、後輩を教えるために来てくれたりで本当にいい交流ができています。これも嬉しいことです。

残念ながらコロナ禍の 3 年間は、in 府中も開かれなくなりました。会員数も半減しましたが、それ以上に困ったのは発表の場がなくなったことです。子供たちにとっては 1 年 1 年が大切です。それで、少しでも発表の場をと思って、コロナ禍の中でも唯一行われていた『お台場ドリムよさこい』で踊ることに申し込みました。生徒の参加は少ないかなと思いましたが以外に多く、笑顔マスクで踊りました。思い切って申込んで良かったです。



これがきっかけでそれまで夏で練習をやめていたのを 1 年間通して練習するようになり、in 府中以降も秋の福祉祭りやイベントに参加したり施設を慰問したりするなど、発表の場が広がっていきしました。いろいろな人たちに観ていただき、みなさんに喜ばれる体験はいい思い出にもなりますから、本当に良かったなと思います。

—— よさこいをやってきて、感じておられることは

あまり深く考えずに飛び込んだ世界でしたが、仲間や応援していただく方々の笑顔に励まされながら、楽しく今日まで続けられました。

よさこいを通じて多くの方ともお知り合いになることができ、学ぶことも沢山ありました。よさこいに出会わなければ若松小学校で子供たちを教えるという体験もなかったと思います。in 府中で賞をいただいたことは子供たちとの楽しく貴重な思い出です。思い切って飛び込み、今日まで続けられたことを感謝して、これからも次の世代につなげていけるよう頑張っていきたいと思っています。

みなさんも一緒に踊りませんか。観てくださる人と笑顔の交流ができ本当に楽しいですよ。ぜひ、鳴子を手にとってください。シャンシャンという鳴子の音に心が躍ります。



（取材：奥野英城、井口文江、中井博子、西谷信昭）

府中市の西に接する日野市、(1) 多摩動物公園、(2) 高幡不動尊、(3) 新選組の関連の史跡・資料館など見どころはいろいろありますが、今回は(2)(3)の散策です。



《日野市散策》



高幡不動の初不動大祭の日が誕生日なので、幼い頃からこの日のお参りは楽しみだった。母と訪れた頃から達磨はここで求めることにしており、帰りには必ずべつ甲飴をせがんだが最近はずっかり見かけなくなった。

今もこの日は、毎年同じように沢山の商店が扱う多種多様なお顔の達磨たちに囲まれて境内を巡るのだが、小さな頃と違っているのは、一緒に歩くのが妻で、昼食時にささやかな誕生会をして、また一つ年をとったと実感することだ。

門前の開運そばでの昼食の後、「新選組のふるさと歴史館」に向かった。入館するとすぐ記念写真の撮影場所があって、新選組の羽織や模擬刀が用意されていた。刀の意外な重さを感じながら、チャンバラポーズで撮影したことが嬉しくて、情けないことに肝心の展示物のことはあまり覚えていない。

次は「日野宿本陣」(写真)を見学。丁度ボランティアガイドさんが、歴史や建物の細かい造作など教えてくれて、ただ見ているだけでは気づかぬ所も判り、とても楽しく有意義な時間を過ごせたので、本陣の建物がとても身近になったように感じた。新選組のことをもう少し識ってから、再訪しようと思う。(竹村 稔)



《日野宿本陣》

天気もまずまずのなか、高幡不動尊から坂の多い感じの日野市をいくつか巡って日野宿本陣に着いた。資料には都内に残る唯一の本陣建築とのこと。立派な門構えの先に本陣が建っていた。観光ボランティアの方にとっても丁寧な説明をしていただいた。資料を見て建物を見学するのと違い当時の様子が想像できていい時間を過ごせた。

中でも鳴居にある釘隠しの形は部屋ごとに違いがあった。菊のような「変わり八つ剣菱」「コウモリ」「つがいのうさぎ」など。一説には「コウモリ」は幸盛りや幸守りという当て字で表現される幸福の思い。「つがいのうさぎ」は子孫繁栄の意味もあるとのこと。職人さんや当主の方々の思いが込められているのだろう。解説があってこそその収穫だったと思う。(辻 麻美)



《八十八ヶ所巡り》

高幡不動尊は、京王線高幡不動駅で下車するとすぐ参道に続く鳥居が見えます。少し歩くと山内八十八ヶ所巡拝路入口の立看板があります。なぜ高幡不動尊に四国八十八ヶ所を模した「山内八十八ヶ所巡り」があるのか疑問に思い調べてみました。

明治42年(1909)池田金太郎ほか7人の発願により四国八十八ヶ所霊場にちなんだ弘法大師の石像88体が寄進されました。1～88番の札所に見立てた石像をお参りし、最後に大師堂前で「お砂ふみ」をすれば八十八ヶ所を巡礼したのと同じ功德(くどく)が得られるとされています。

御朱印はいただけませんが健脚な方なら1時間ほどで回れます。6月、7月の季節なら紫陽花が一面に咲く中を歩くようになっています。

一度訪れてみてはいかがでしょうか。(井口文江)



《鳴き龍》 高幡不動尊の大日堂で鳴き龍を見学し、細かいビートを刻んだ響きに感動した。これは体感してこそその感覚だった。

強く短いビートは、ロックを感じさせてくれた。この仕掛けはどうなっているのか? 天井を見上げると中村岳蓮の迫力ある龍の絵があるが、薄暗くて良く見えない。四隅には木材を組み、寄せ木みたいなのがついていた。強く手を叩くと音が反射を繰り返して細かいビート音に成るようだ。



ちなみに、日光東照宮にも泣き龍があるが鈴のようと言われている。日本全国色々な所にあれどロックを感じさせてくれるのはここだけかも。いかにも聞き届けた様に答えてくれる泣き龍。現代版のお告げを聞いてみてはいかがでしょうか。(山田詩子)

《新撰組 鉄の掟》

農民から武士になり英雄視される新撰組であるが、武士よりも武士らしくを意識して、近藤勇と土方歳三で定めた局中法度と言われる鉄の掟をもって隊を統括したという。

- 一. 土道に背きまじきこと
- 二. 局を脱するを許さず
- 三. 勝手に金策いたすべからず
- 四. 勝手に訴訟取り扱うべからず
- 五. 私の闘争を許さず

の五箇条から成る。

血気盛んな若者を統べるには厳しさが必要であったと思われるのだが、新撰組の死亡者約50人のうち、半数はその法度に違反したとして切腹または肅清(斬殺、斬首)された者と言われる。

新撰組への思いは人それぞれだが、歴史の出来事には表も裏もあることを痛感する事実だ。(小林清次郎)



《編集後記》本紙4面「ふちゅう東西南北」のコーナーで連載中の「隣接市を訪ねて」、今回の7回目で府中市と境界を接する市は全て訪ねました。各市とも広く学びのポイントも様々で十分にご紹介できませんでしたがまとめてWebに載せました。ご覧ください。記事は編集のメンバーが実際に散策して書いています。みなさんもやってみませんか、楽しいですよ。ワイワイガヤガヤ、ぜひ! (西谷信昭)

新メンバー募集中! 問合せはメールで ⇒

